

学会発足までのこと

今回、同学者多数の要望と賛同によって「日本思想史学会」が、正規の学会として新たな発足をしましたことは、同慶にたえないところであります。

本会は昭和四十三年十一月十七日、東北大学を会場として開催された発会総会によって正式に発足したのでありますが、ここに至りますまでには、凡そ次のような事前の経過があったわけでありませう。特にそこには従来「日本思想史研究会」として進められて来た数年來の活動が、自然な発展として本会の設立につながっているのがあります。

「日本思想史研究会」は、東北大学文学部日本思想史研究室（主任石田一良教授）を中心として、広く全国同学の方々と連絡をとり、月例研究会、研究図書編集出版、研究会大会の開催などを続けて参った極く自由な研究のための集りでありました。即ち研究書の編集出版としては、昭和三十六年に『日本における歴史思想の展開』（東北出版刊）、同四十年に『日本における倫理思想の展開』（吉川弘文館刊）があり、また研究会大会は昭和三十七年十一月東北大学文学部を会場として第一回を開催して以来、同三十九年十月に第二回（会場東北大学）、同四十一年十一月に第三回（会場同志社大学）、同四十三年十一月に第四回（会場東北大学）と、隔年毎に全国から研究者多数の参会を得て行われて参りました。

このように「日本思想史研究会」は、広範囲にわたる同学者の支

持と協賛を得て、年來その活動を続けて来たのでありますが、何分にも元來がその時々の事業をおしよる研究者の自由な集りであり、必ずしも正規の学会としての組織や体裁を持つものではありませんでした。そのため、それにはそれとしての独自の存在意義を認めながらも、やはりこれは正規の学会として組織すべきだという要望が、早くから参会者の中にあり、年と共にその声が強くなって参りました。そこでそうした学界の氣運に即応するため、昭和四十二年頃から学会設立について各方面の意向を徴して漸次その方向に準備を進め、翌四十三年の第四回研究会大会を機に、「日本思想史学会」として新たな発足をみるに至った次第であります。このことは設立事務を担当した東北大学のほか、各大学をはじめ諸方面の同学者多数の積極的な支持と協力がこれを實現させたものであり、広い視野に立つ新たな学会の出發として、喜びと感謝に耐えないところであります。このような経過をもって成立した本会が、他に類例をみない独特な学会としてその存在意義を十分に發揮し、意義ある発展の道を辿りますよう心から念願するものであります。

一応ここに本会発足までの沿革の一端を記した次第であります。

梅 沢 伊勢三

〔附記〕

戦前戦中に、故村岡典嗣教授の主筆する「日本思想史学会」がありました。が、教授の逝去と戦後の混乱により自然解体の形となつたのは残念なことであります。その後故竹岡勝也教授が「日本思想史研究会」を始められ、これが前記の「日本思想史研究会」の前身であります。従つて東北大学についてみますと、本学会の源流は更に遠いものとなるわけでありませう。